

令和2年度 後期卒業式 式辞

夙川を渡る風に春の訪れが感じられる今日のこの佳き日、ご来賓のPTA会長様、保護者並びにご家族の方々のご出席を賜り、ここに令和2年度兵庫県立西宮香風高等学校後期卒業証書授与式を挙行できますことを心から感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与いたしました169名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。西宮香風高校を選んで入学した日から今日まで、あきらめそうになった日も、くじけそうになった日もあったことでしょう。しかし、みなさんは最後までやり抜きました。これまでのみなさんの努力に対して、深い敬意を表します。

ご家族の皆様、本日は誠におめでとうございます。卒業生を今日まで支えてこられましたご家族の皆様には、さぞやご苦労もおありだったことでしょう。立派に卒業の日を迎えられた姿に、感慨もひとしおのことと存じます。また、この場をお借りいたしまして、これまで本校にお寄せいただきましたご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

さて、卒業にあたり、卒業生のみなさんに「出会い」についてお話ししたいと

思います。かなり個人的な話になりますことをお許してください。

私には娘がふたりおります。下の娘は小学校の5年生の時と中学校の3年間、ほとんど学校に行きませんでした。その頃の口ぐせは、「学校嫌い、友だちいらん、先生なんか信用できない」でした。学校に行かなかった理由は今もわかりませんが、学校、友だち、先生のすべてが嫌になっていたことは、この言葉が表しています。

そんな娘も高校には行きたいと言い、受験したのが西宮香風高校です。そして、だれひとり知り合いのいない高校生活が始まりました。中学校では苦手だった体育が楽しいと言いました。現代社会の先生の授業と関係ない話が面白いとも言いました。学校帰りに友だちとカラオケに行ったと聞いた時、親として涙が出るほどうれしく思いました。「香風祭でスタンドグラスをみんなで作ったから見に来て」と言われ、仲のよい友人を紹介してもらいました。大学に行きたいと考え出した時、英語の先生が問題集を紹介してくださり、問題を解いては先生に見てもらっていました。親が知る子どもの学校生活はほんの一部でしかありませんが、学校、友だち、先生のすべてが嫌だった娘は、西宮香風高校で人に対する信頼を取り戻すことができました。卒業式の日、西宮香風高校での友だちとの出会い、先生との出会いは、この子の一生の財産になるのだらうと思いました。

そして、卒業してから十数年たった今、実際にそうになっています。

その後、縁あって私は西宮香風高校の一員となることができ、今こうしてみなさんにお祝いの言葉を述べる機会をいただいています。私も香風高校の生徒のみなさんや先生方、保護者のみなさまとの出会いを通して、この歳になっても新しいことに気づいたり、学んだりできたことに感謝しています。

この個人的な経験から、西宮香風高校で出会いは、生徒も先生も保護者も、香風高校に関わった全ての人の人生を豊かなものにしてくれるものと私は信じています。西宮香風高校はそんな不思議な力があふれている場所です。この場所で共に過ごした日々を、出会いを、みなさんひとりひとりの宝物として、大切に胸に抱いて母校を巣立って行ってください。みなさんが卒業されても、この学び舎はずっとここに 있습니다。悲しいとき、苦しいときは、西宮香風高校での出会いを思い出してください。きっと、「もう少しがんばってみよう」と思えることでしょう。

いよいよお別れの時が近づいてきました。私もみなさんより少し遅れて3月末に西宮香風高校を卒業します。みなさん、どうか幸せな大人になってください。何が「幸せ」なのかは決まっていません。あなたの人生を「幸せ」と思うのは、あなた自身です。自分の歩幅でいいのです。一步一步、歩いて行ってください。

卒業生のみなさん全員が自分を大切に、そして幸せな人生を歩まれることを心からお祈りして、式辞といたします。

令和3年2月27日

兵庫県立西宮香風高等学校長

石川 照子